

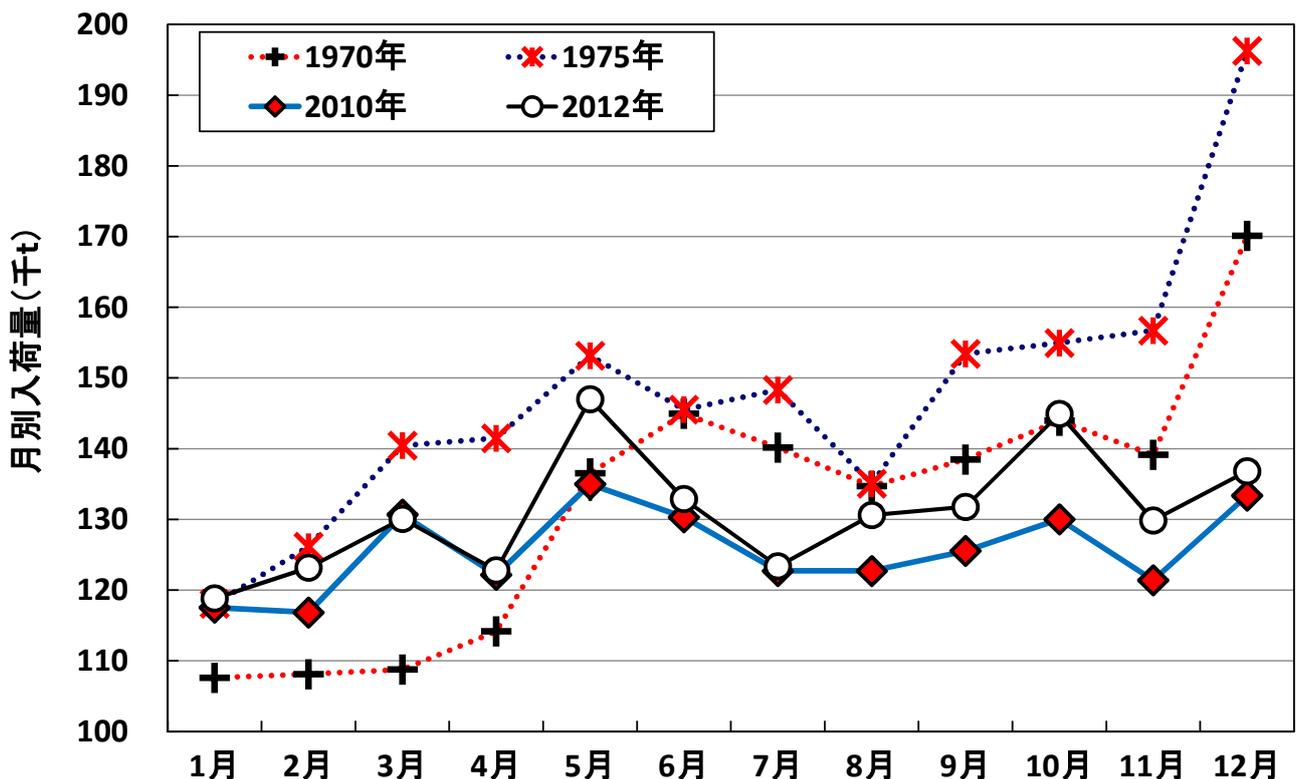
野菜流通の今日の特徴

東京農業大学国際食料情報学部
藤 島 廣 二

1. 供給の周年化と産地の全国展開
(輸送網の整備とコールドチェーン化)
2. 輸入の増大と加工品の増加
(輸送手段の発達、円高、国内生産力の低下)
3. 業務・加工用需要比率の上昇
(高齢化の進行、食の外部化)
4. 消費量の減少と流通量の減少
(野菜は米の補完財か)
5. 価格の全般的な低位収斂化
(供給過剰傾向の深化、高齢化社会の進展)

1. 供給の周年化と産地の全国展開

図1-1 東京都中央卸売市場における野菜の月別入荷量の変化



出所：東京都中央卸売市場「年報」

図1-2 ホウレンソウの月別入荷量の変化(東京都中央卸売市場)

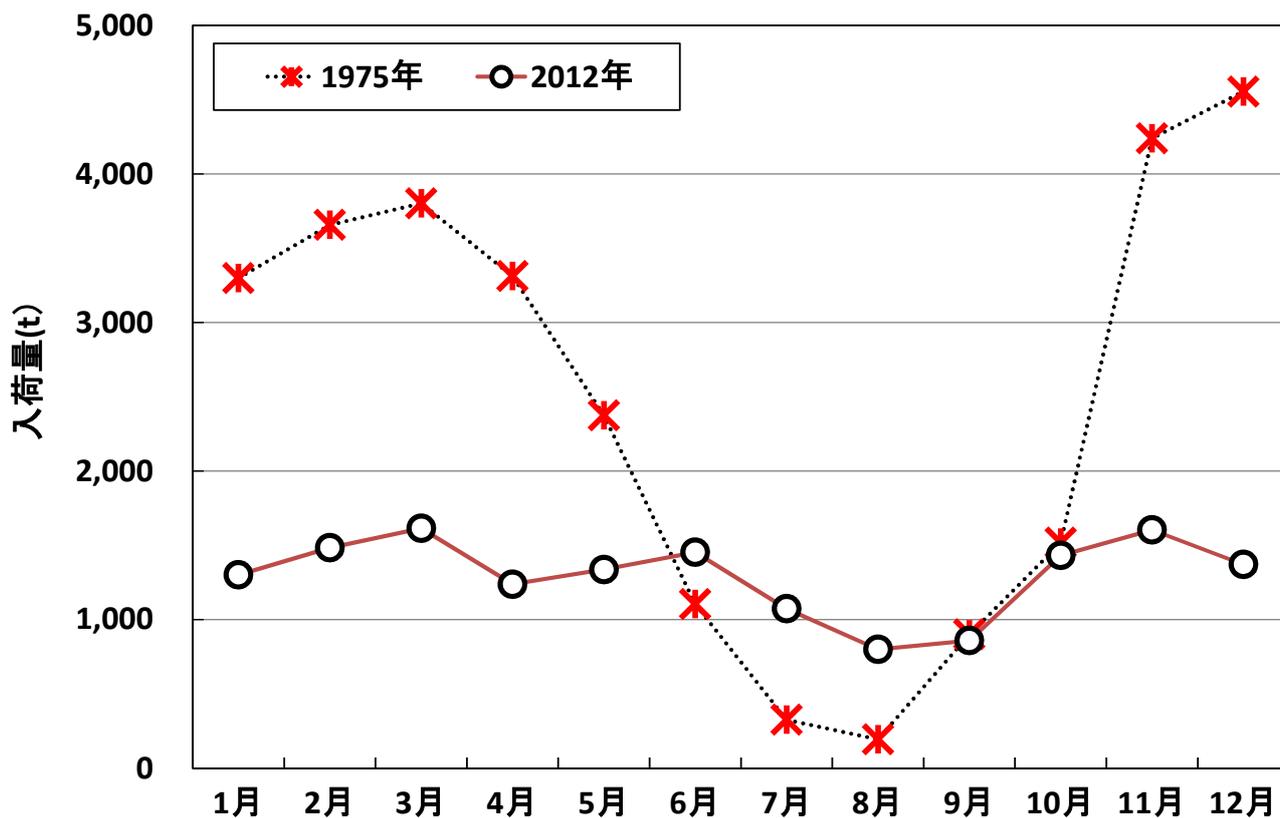


図1-3 ブロッコリーの月別入荷量の変化(東京都中央卸売市場)

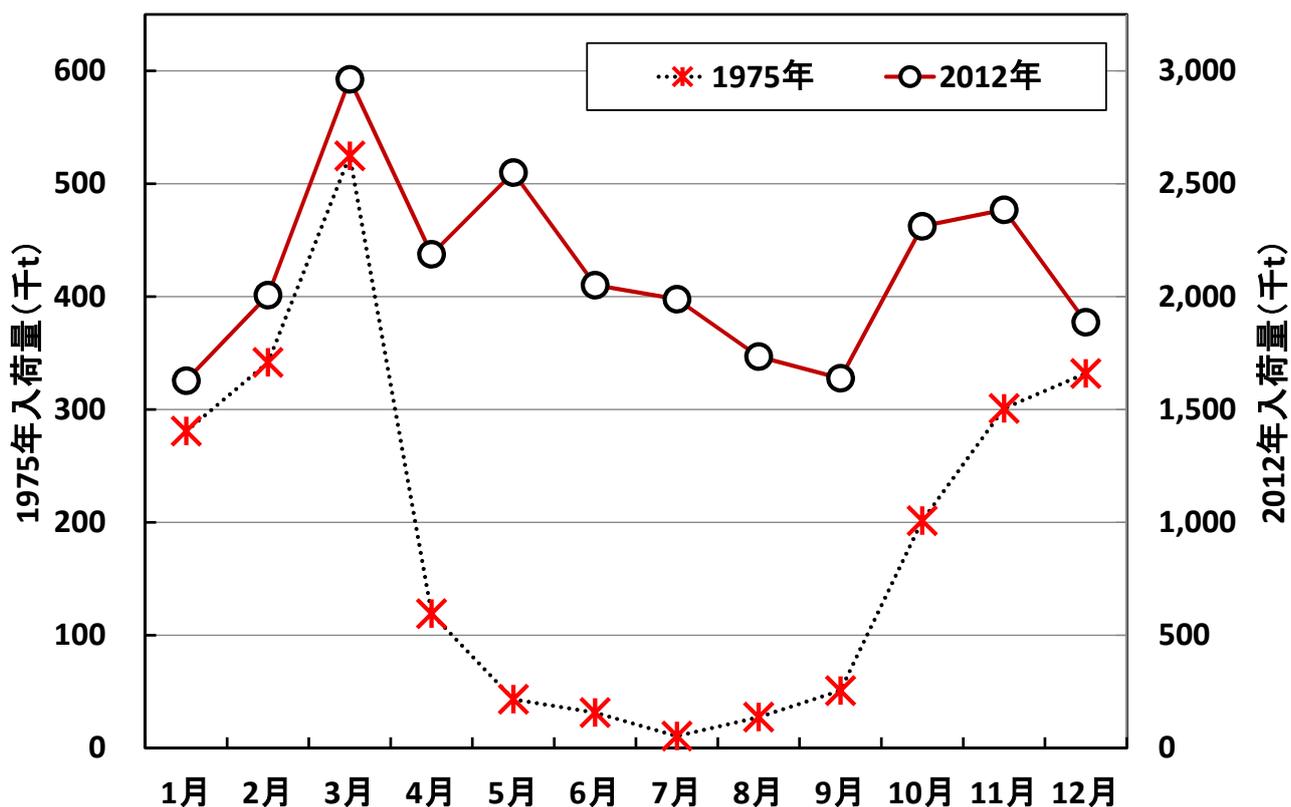


図1-4 ホウレンソウの産地別入荷状況
(東京都中央卸売市場・1975年)

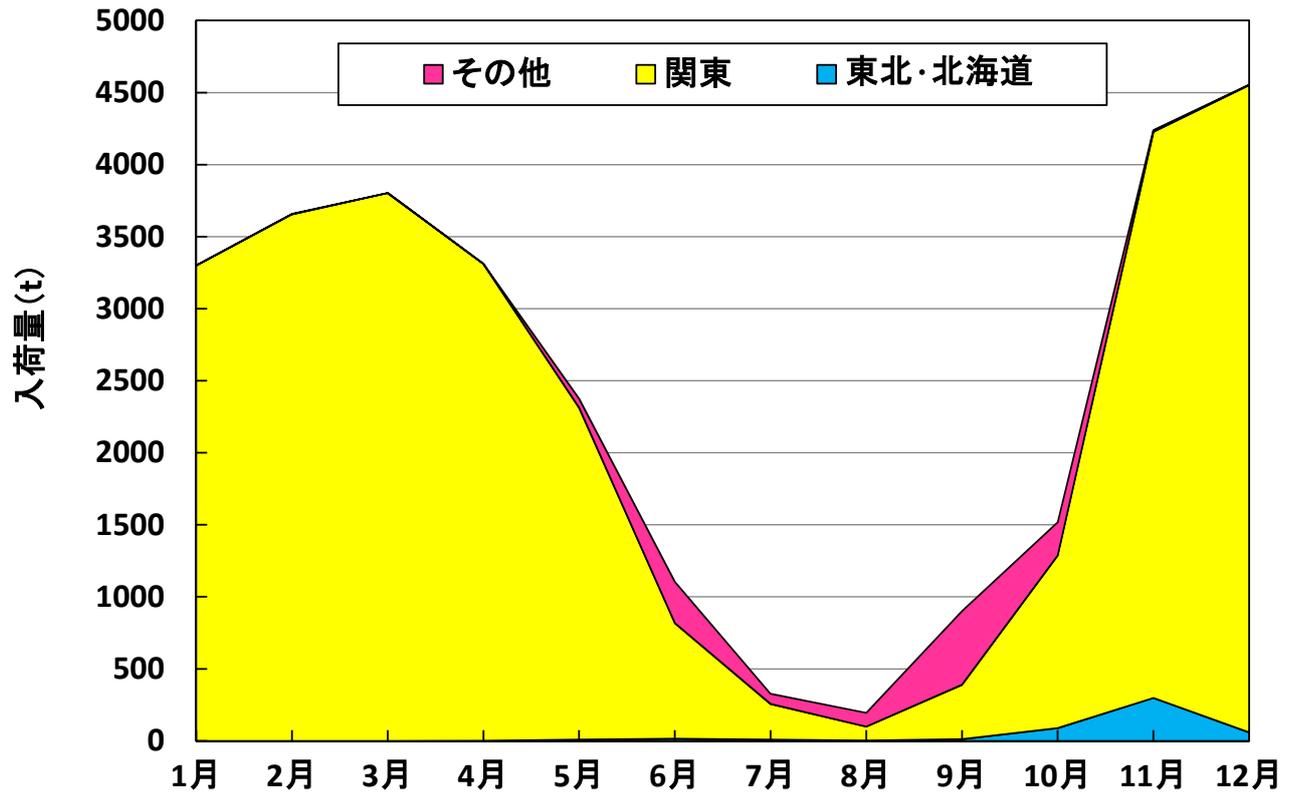


図1-5 ホウレンソウの産地別入荷状況
(東京都中央卸売市場・2012年)

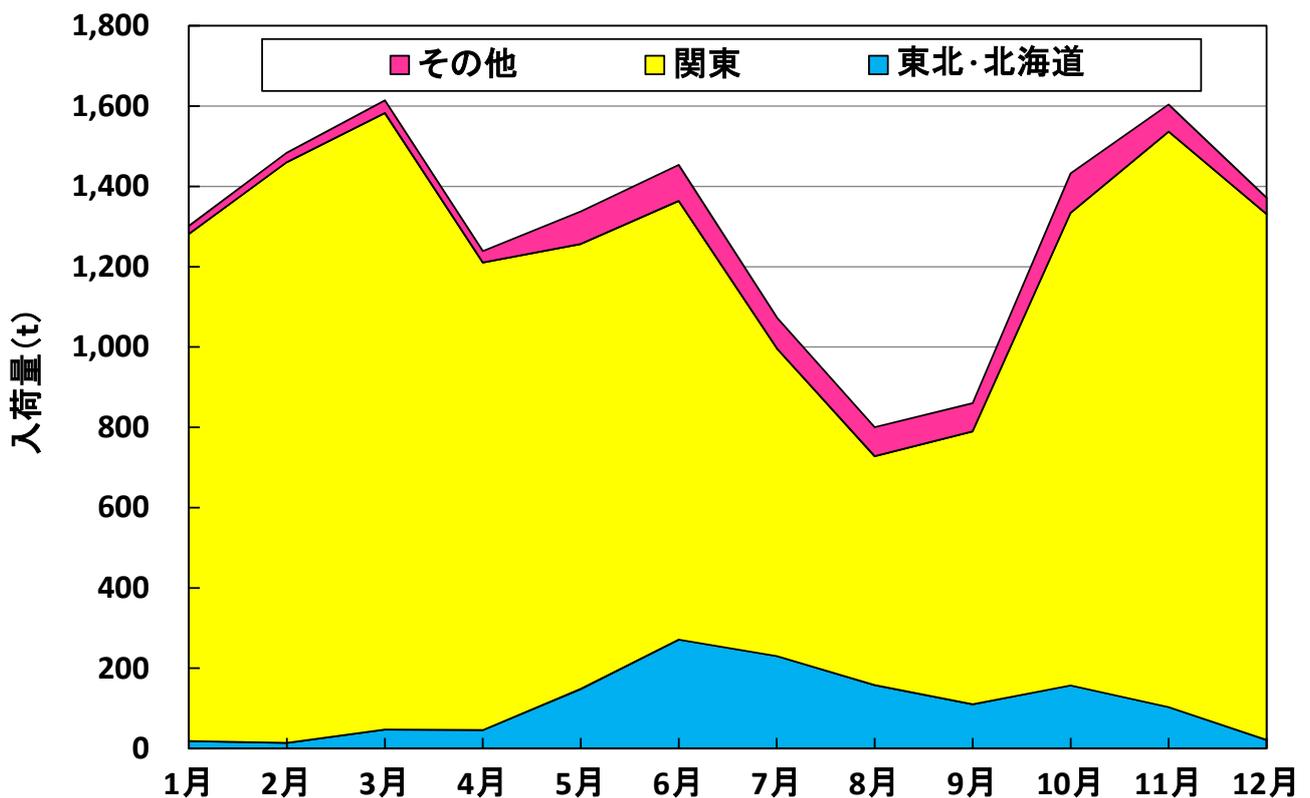


図1-6 ブロッコリーの産地別入荷状況
(東京都中央卸売市場・1975年)

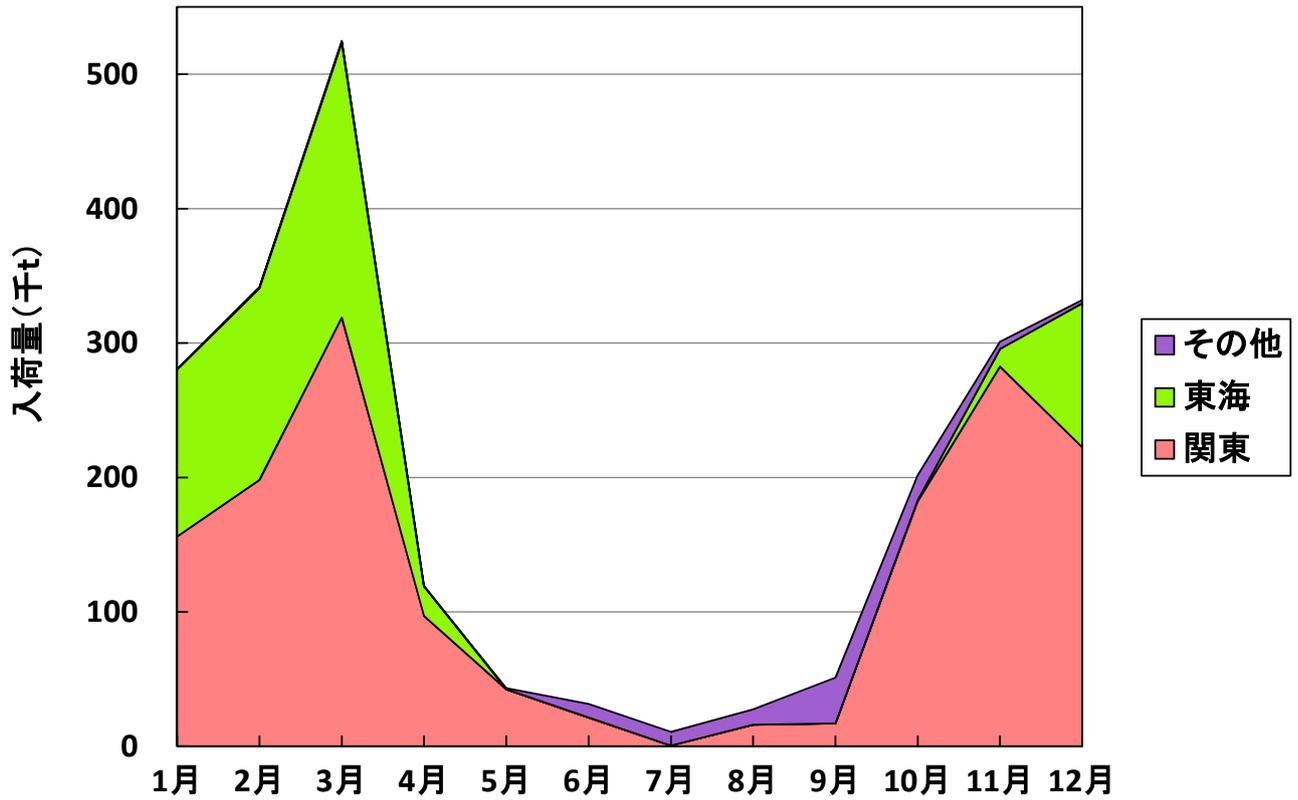
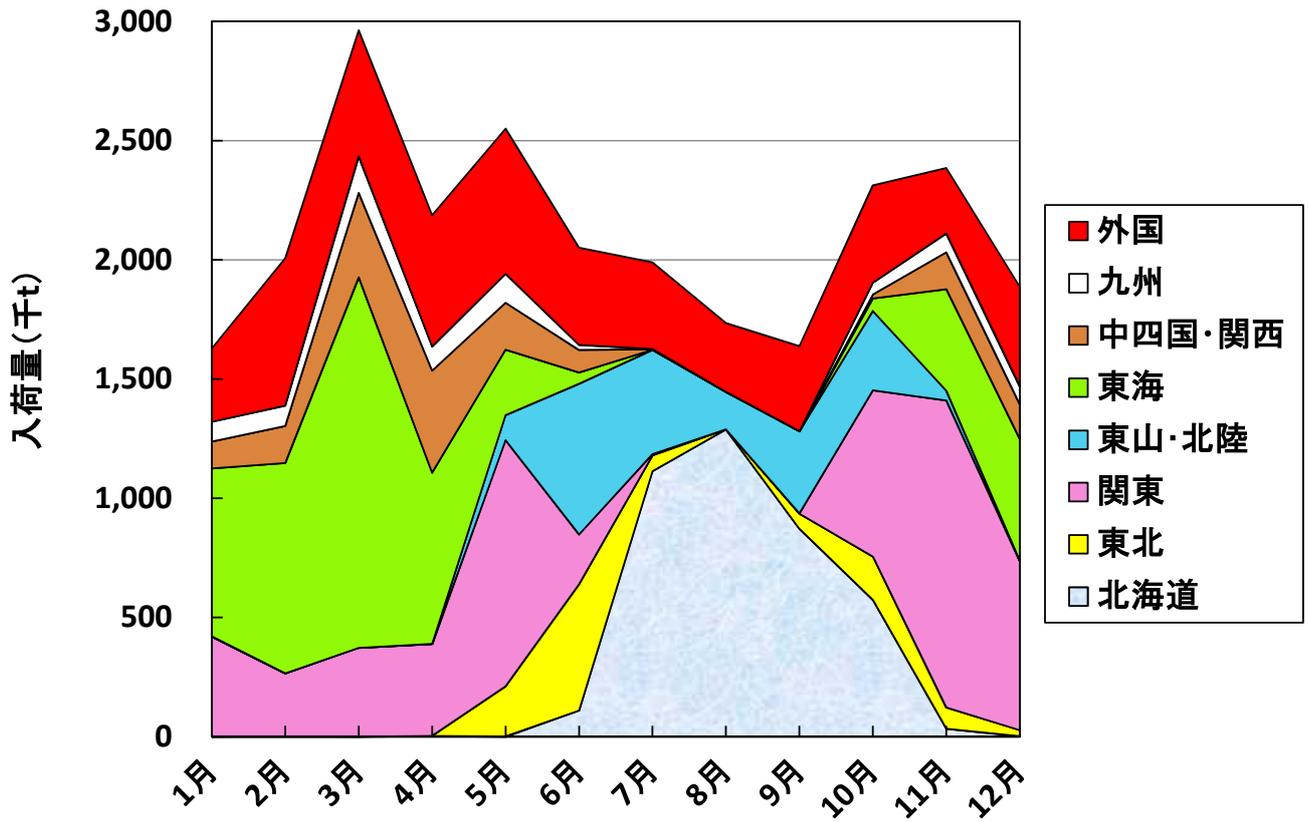


図1-7 ブロッコリーの産地別入荷状況
(東京都中央卸売市場・2012年)

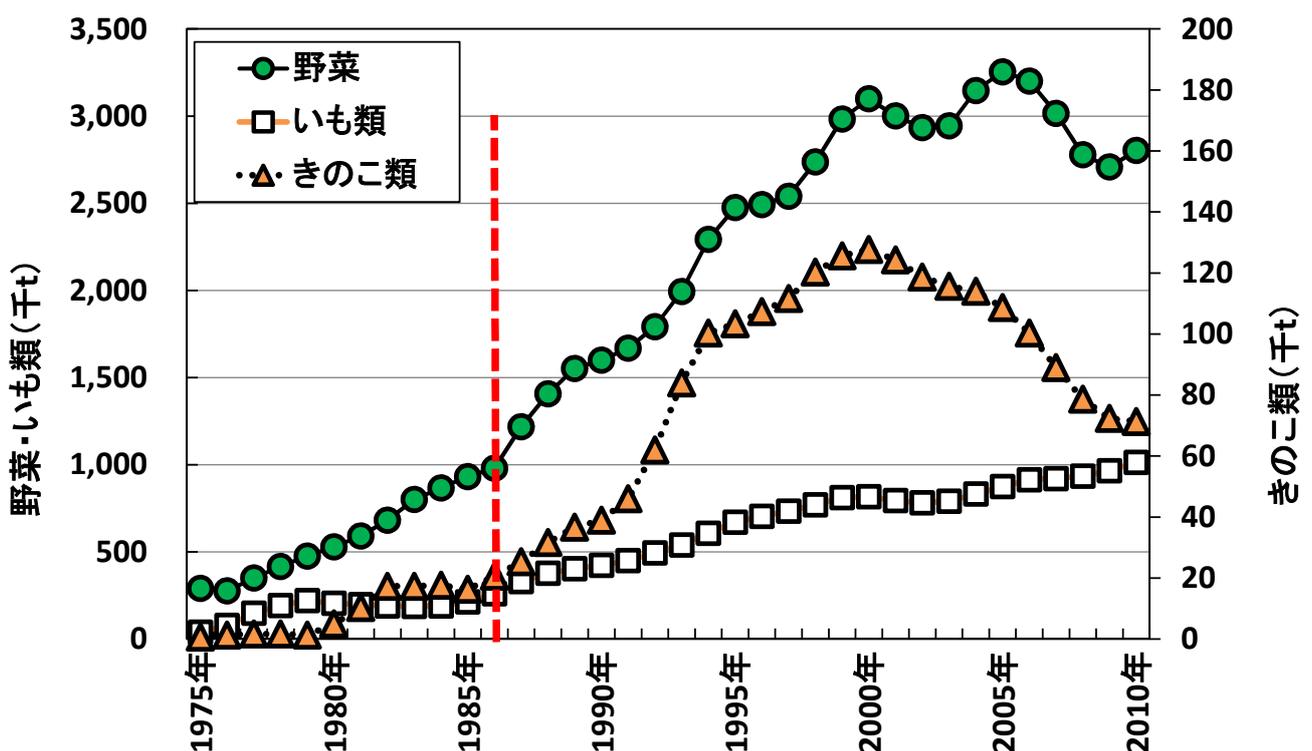


- ・供給(量)は周年化・安定化が進展
 同じ産地での栽培技術の向上
 集荷先産地の遠隔地化・多様化(海外産地を含む)
 (輸送網の整備、コールドチェーン化)

- ・ただし
 同一産地でも時期(季節)別栄養成分含有量は変化
 時期に対応した産地の交代による変化?

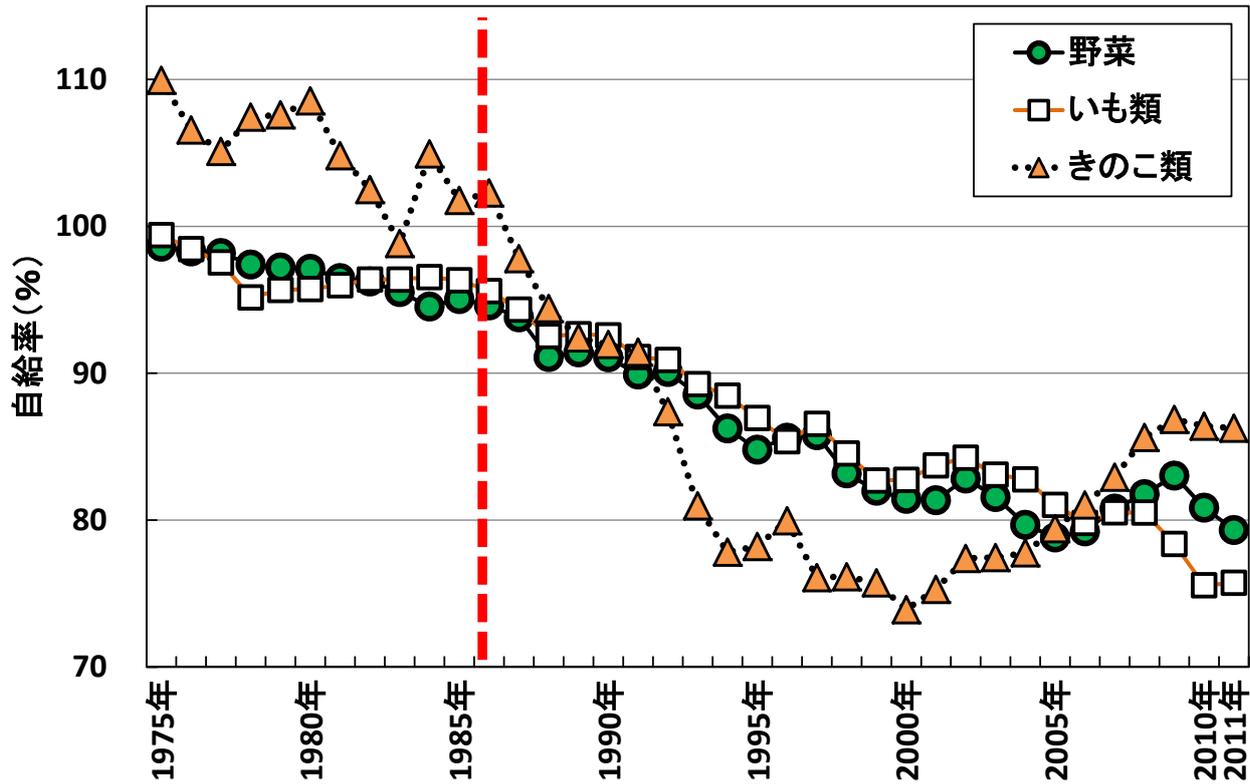
2. 輸入の増大と加工品の増加

図2-1 野菜、いも類、きのこ類の輸入量の推移(3カ年移動平均値)



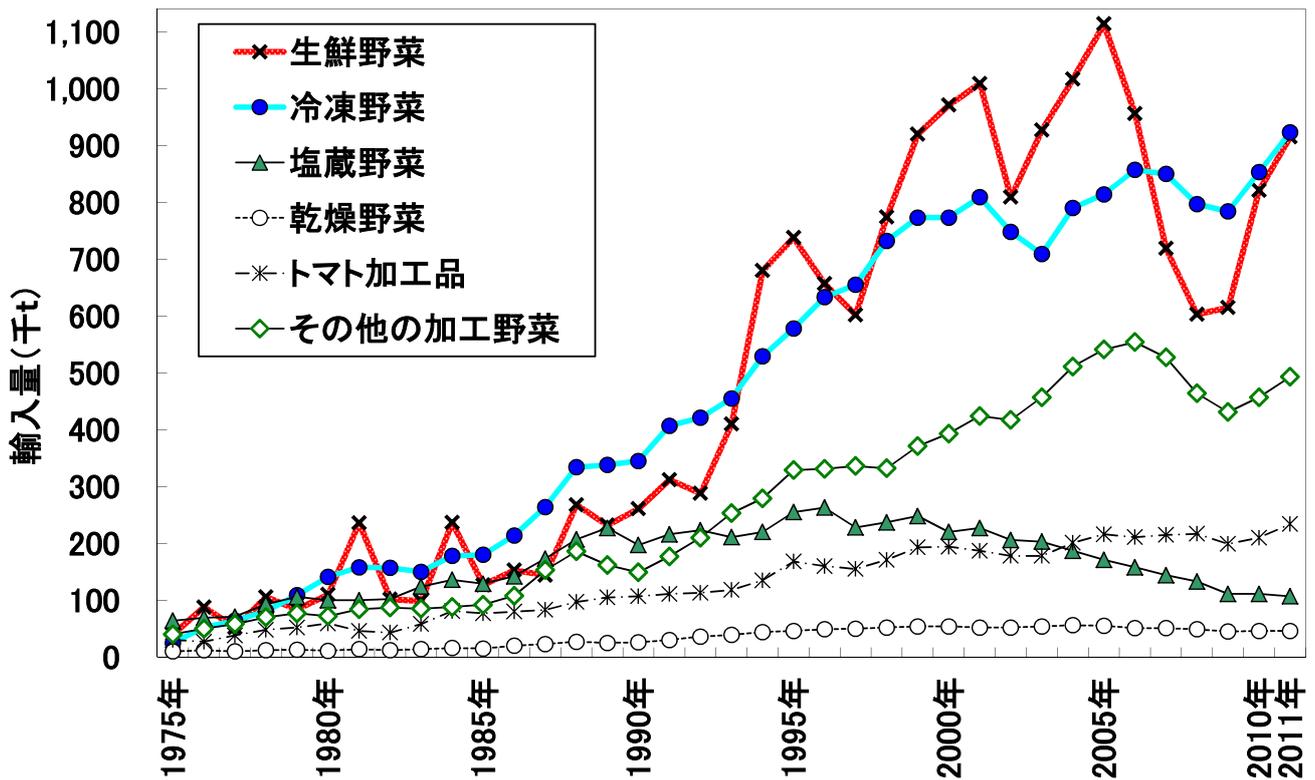
出所:『食料需給表』

図2-2 野菜、いも類、きのこ類の自給率の推移



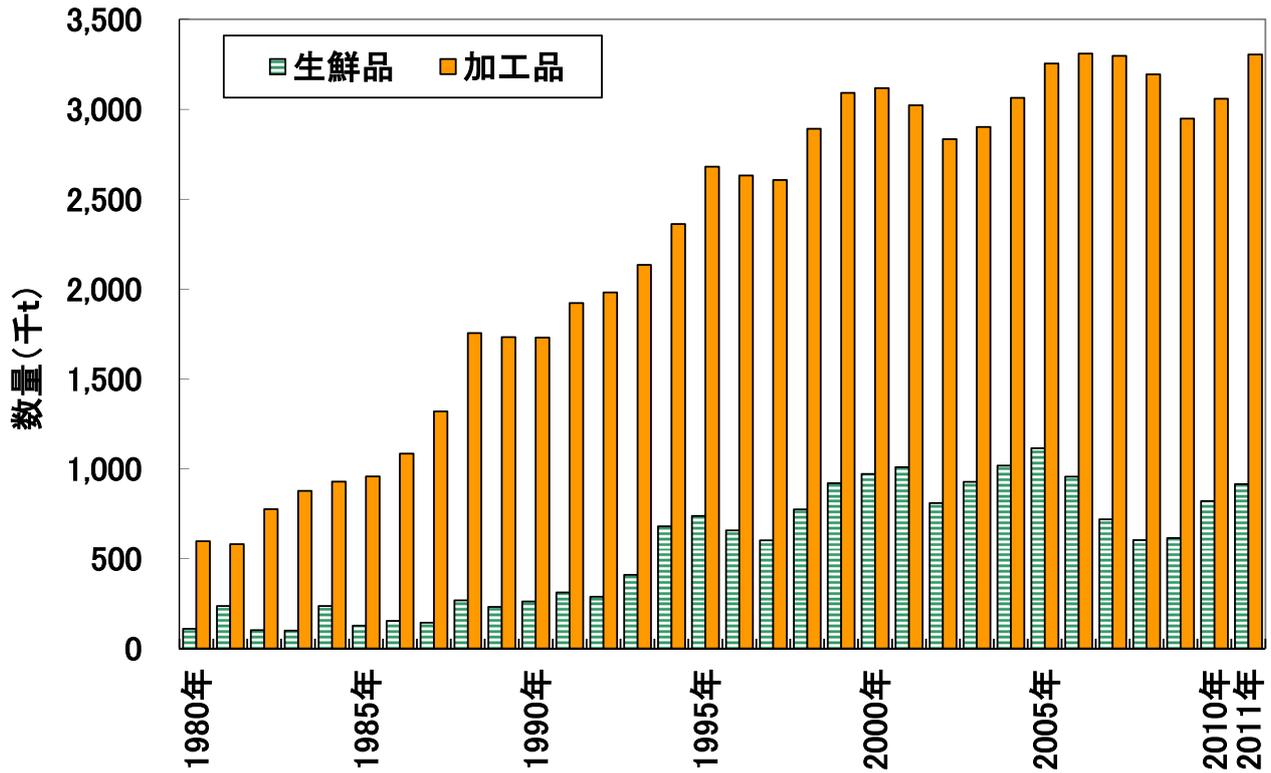
出所:『食料需給表』

図2-3 野菜の製品形態別輸入量の推移



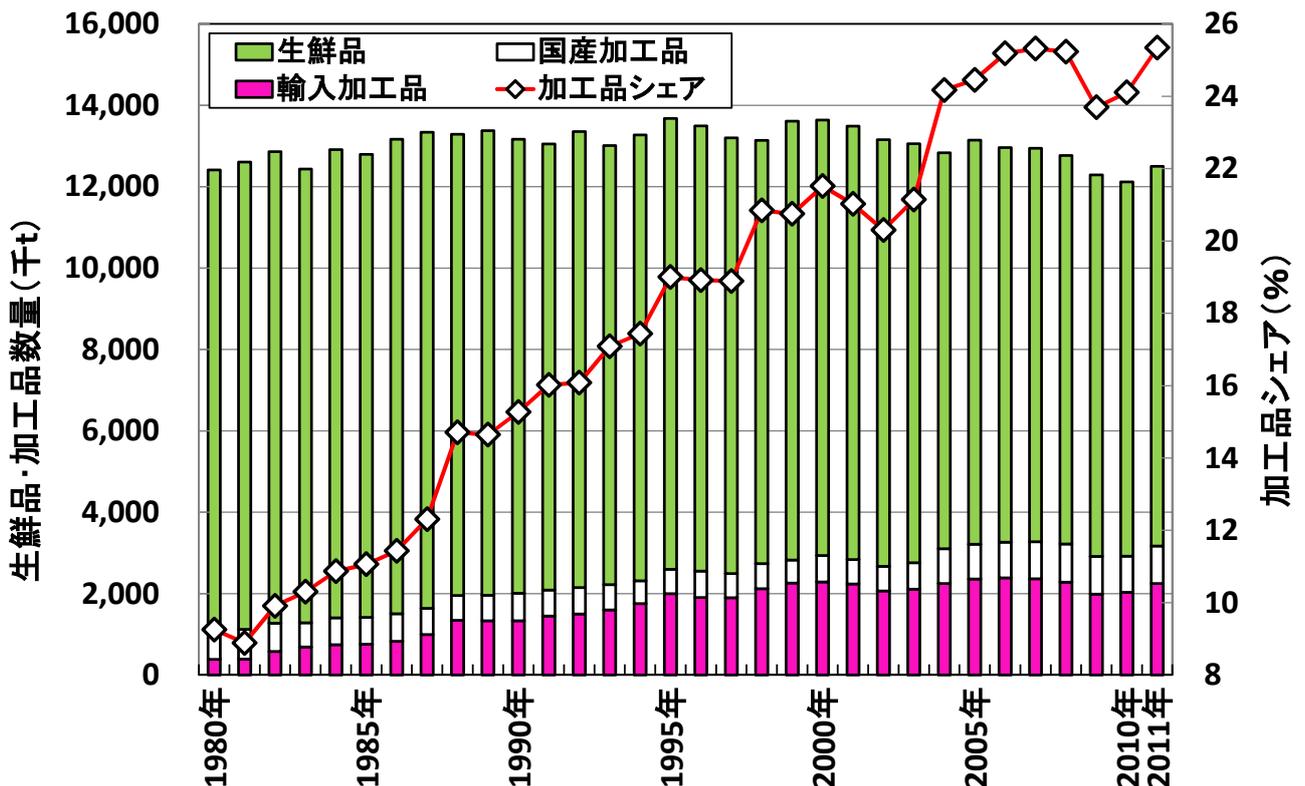
出所:農畜産業振興機構(旧野菜供給安定基金)資料
 注:加工品は製品数量である(生鮮換算数量ではない)。

図2-4 野菜の生鮮・加工別輸入量の推移



出所：農林水産省総合食料局「食料需給表」、農畜産業振興機構「野菜輸入の動向」
 注：加工野菜輸入量は生鮮数量に換算した。

図2-5 野菜の生鮮品・加工品(輸入加工品、国産加工品)別流通量の推移



出所：「野菜生産出荷統計」「食料需給表」「野菜輸入の動向」

・輸入の増大

1985年を境にした輸入量のより大幅な増加
 (輸送手段の発達、円高、国内生産力の低下)
 自給率の下げ幅も拡大

・加工品の増大

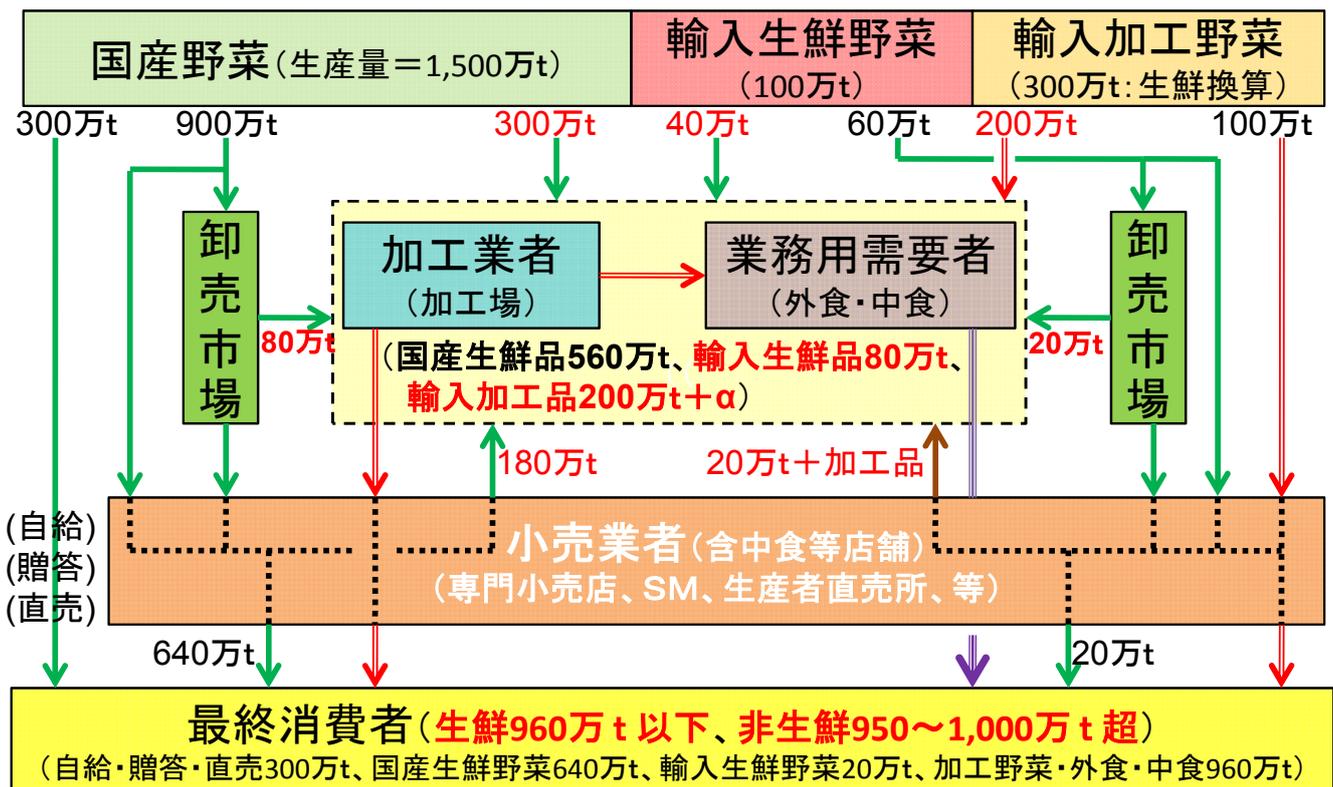
加工品の輸入量の増加が顕著
 (流通のグローバル化は加工品の増加?)



国内流通量の占める加工品比率は約25%
 (いも類も合わせると30%超)

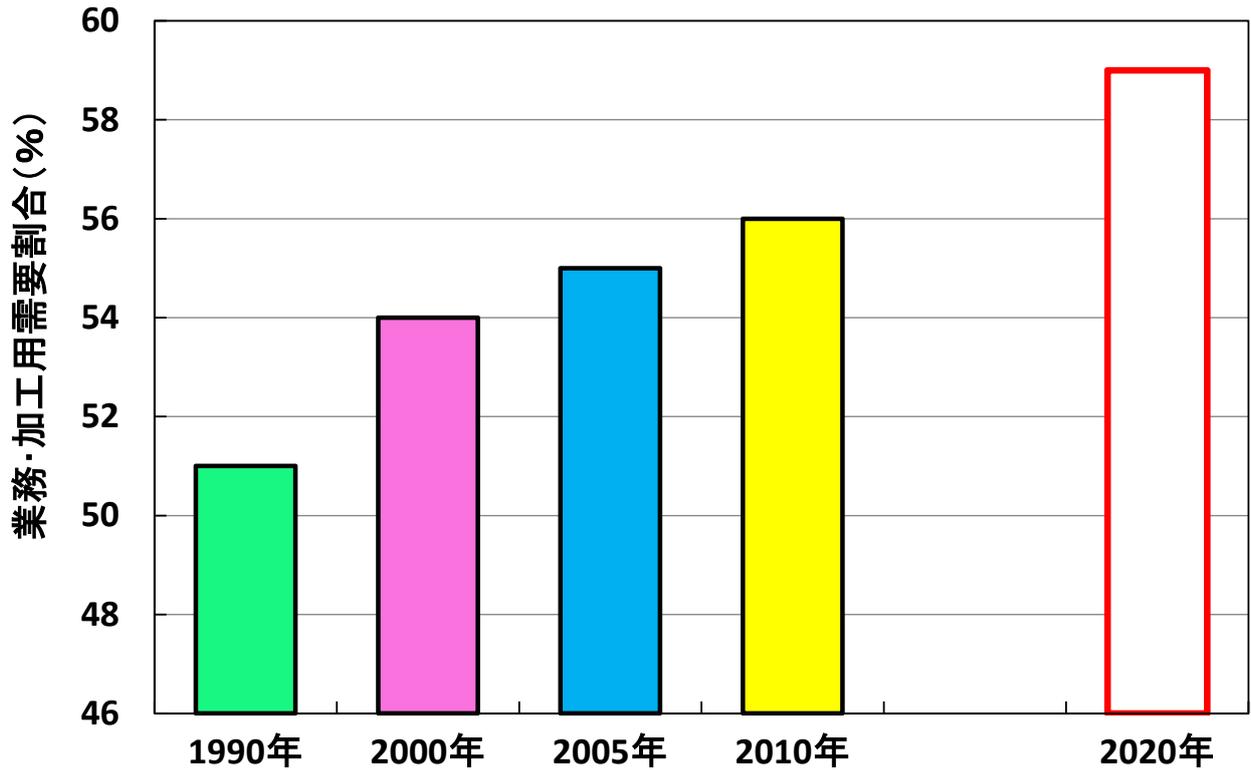
3. 業務・加工用需要比率の上昇

図3-1 野菜の需給構造の概要(2005年)



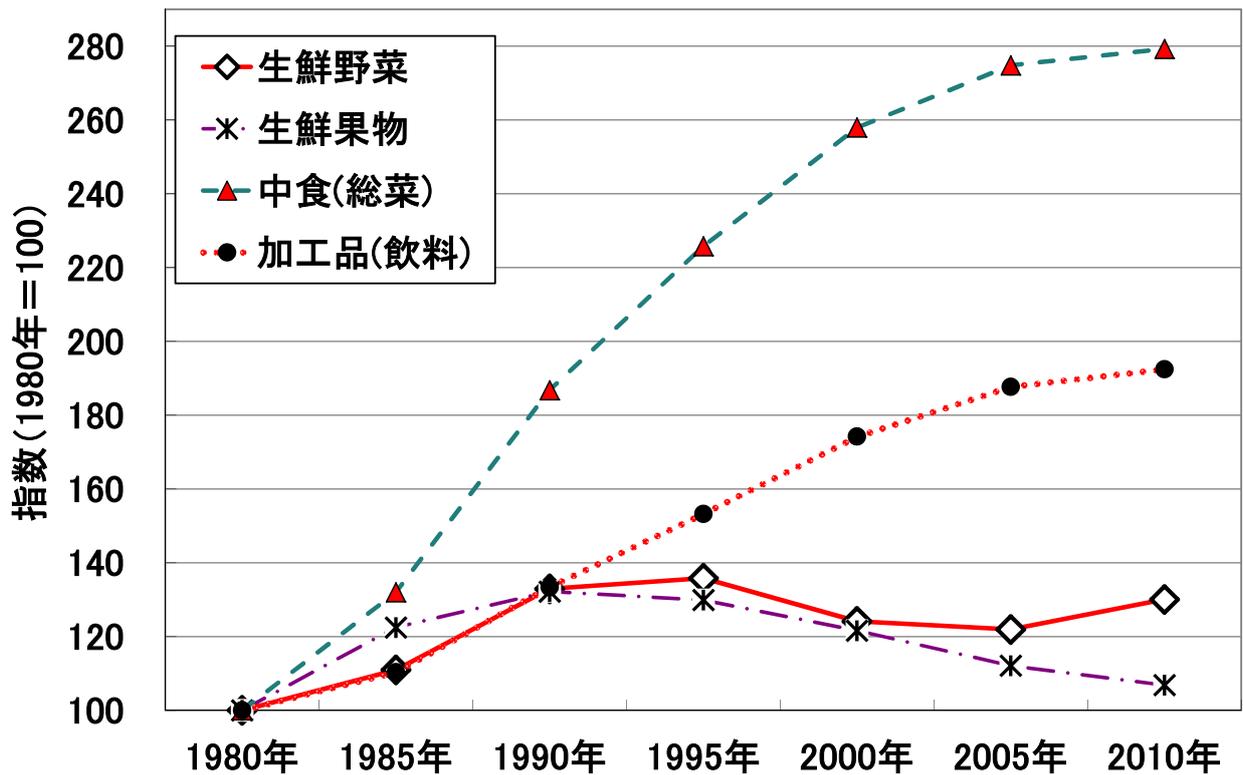
注)2006年の聴取調査。数字は推計値。

図3-2 野菜の業務・加工用需要の割合



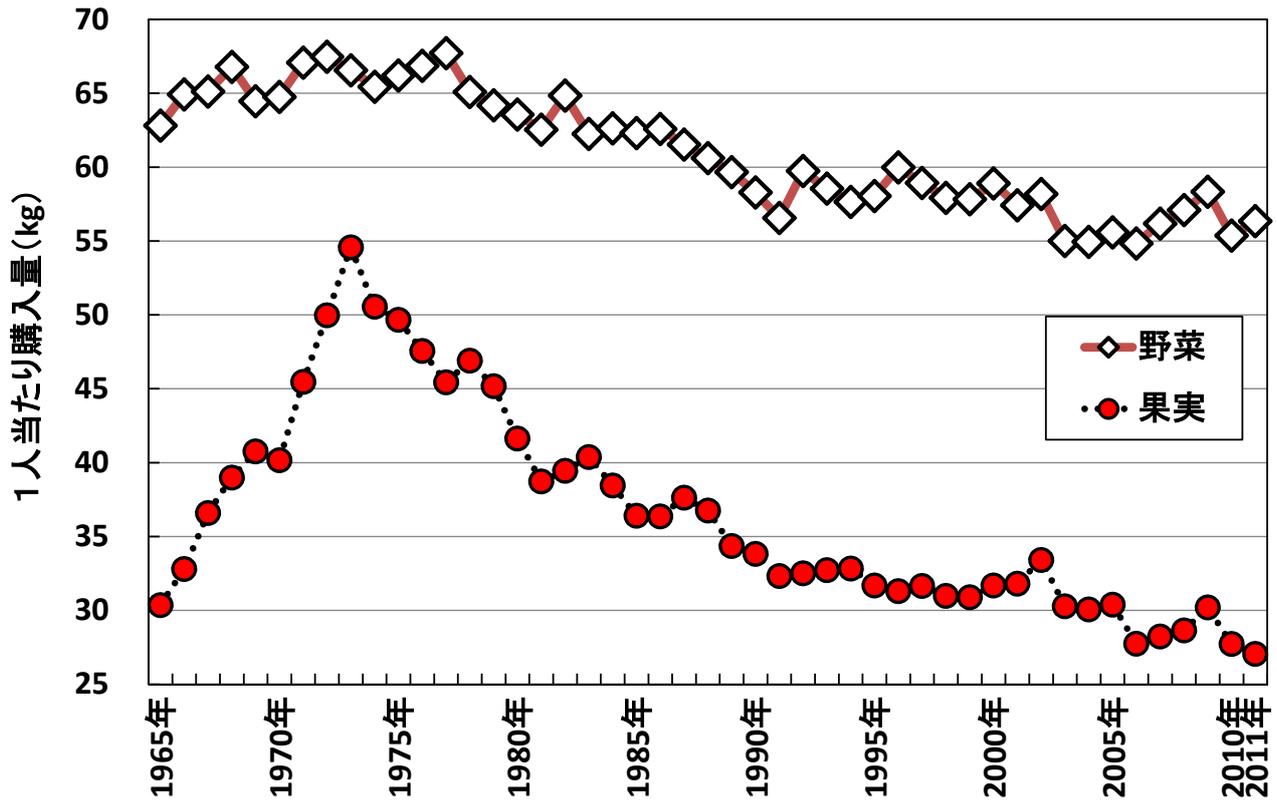
注：1990年、2000年、2005年、2010年は農林水産政策研究所の推計値。2020年はそれに基づいて推測したもの。

図3-3 品目別最終消費者支出額の伸長状況(家計調査)



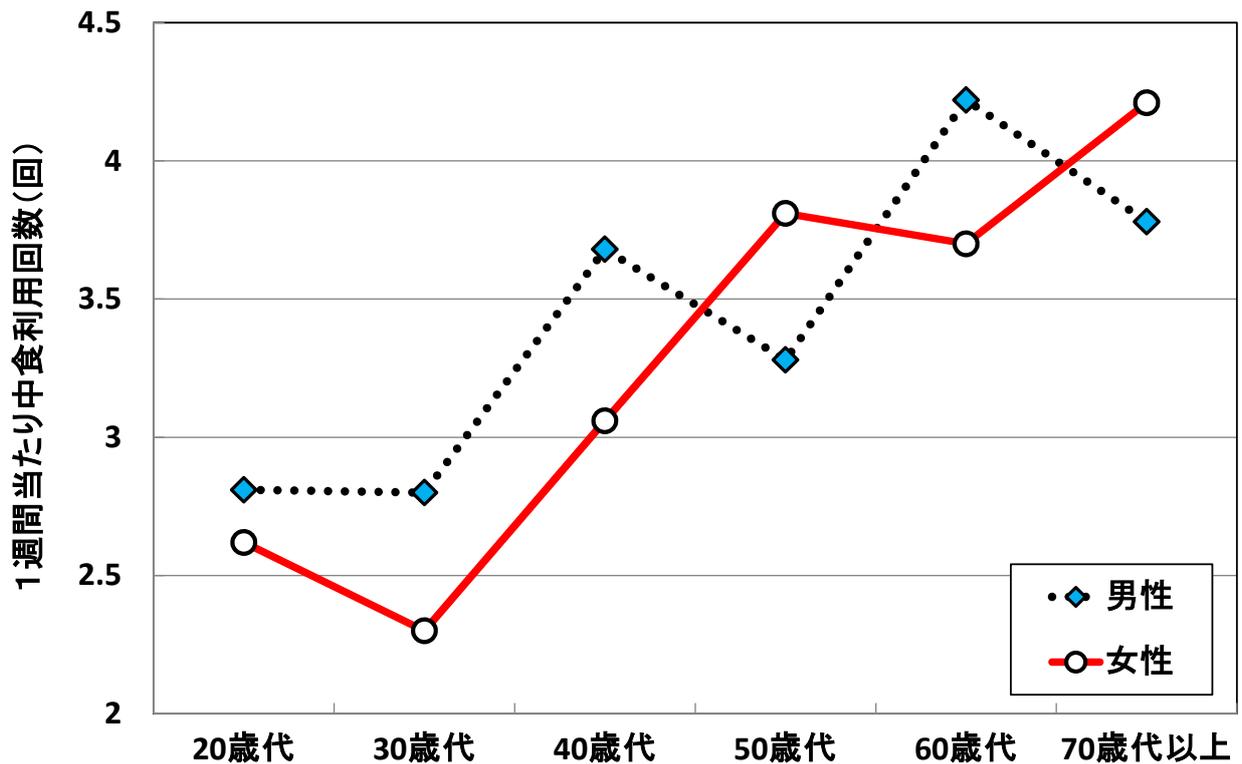
出所：総務省「家計調査年報」

図3-4 1人当たり年間生鮮品購入量の変化(家計調査)



出所:総務省「家計調査年報」

図3-5 中食利用者の年代別中食利用頻度



出所:イトーヨーカ堂大井町店での顧客アンケート調査(1999年8月6日・9月10日)

- ・業務・加工用需要は現在では半分以上
農林水産政策研究所の推計では56%（2010年）



業務・加工用比率は上昇傾向
（食の外部化の進展）

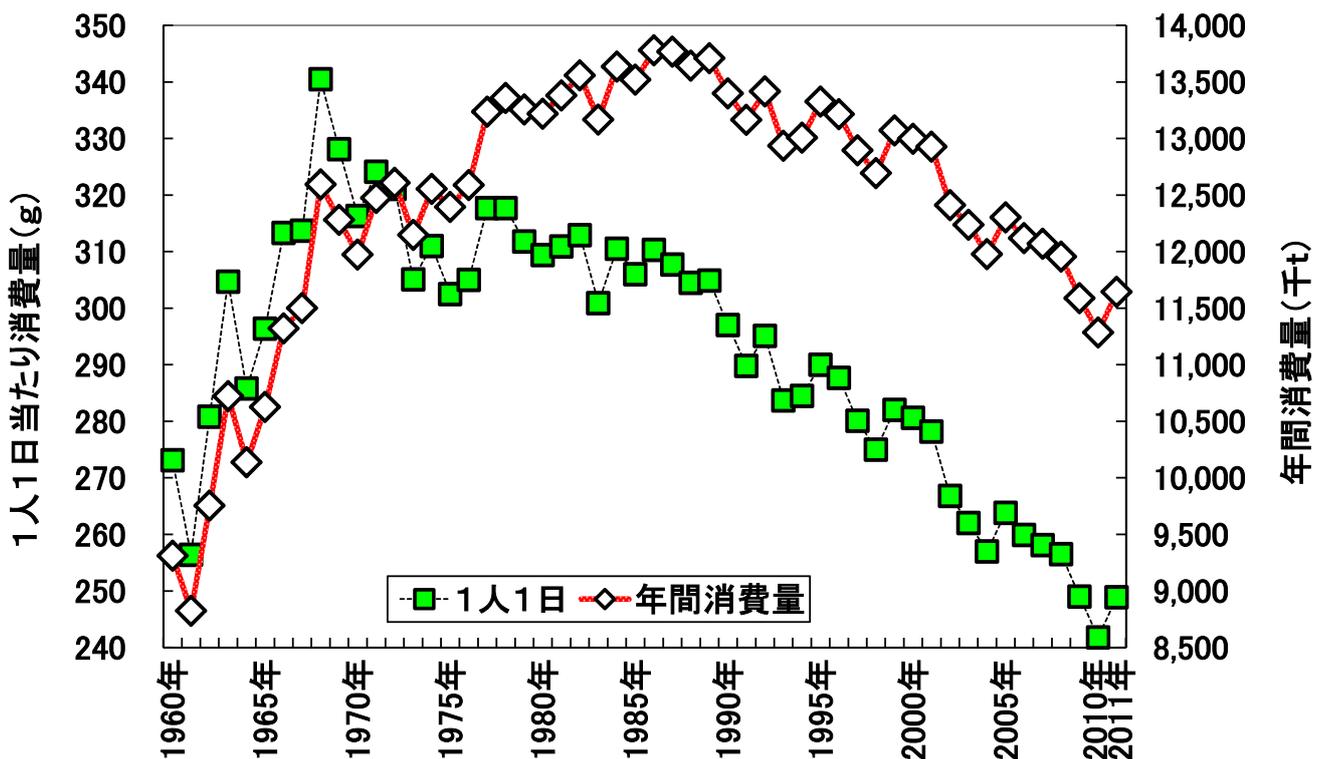
- ・生鮮品の購入量は減少
（高齢化による調理労働の縮小）



加工済み、調理済み食品の普及

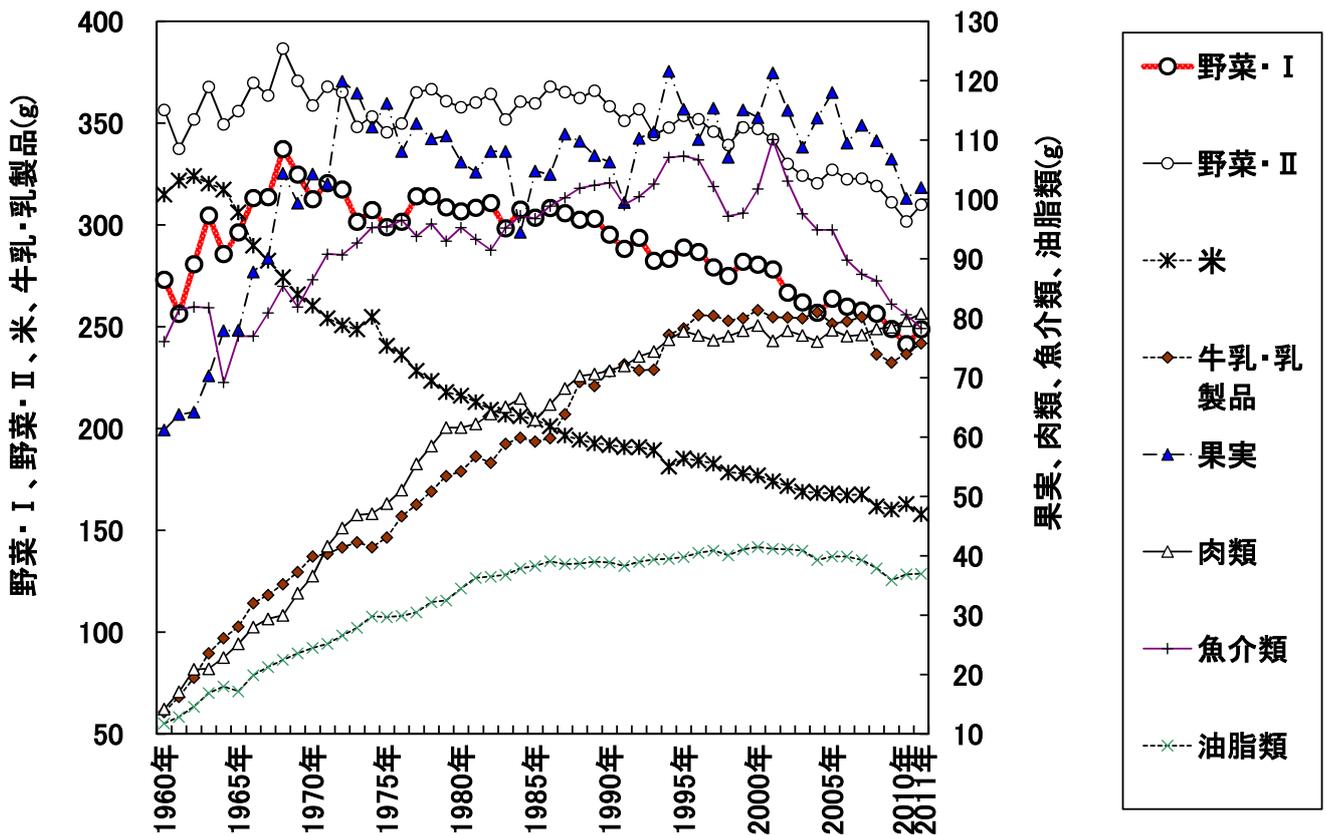
4. 消費量の減少と流通量の減少

図4-1 野菜の1人1日当たり消費量と年間消費量の推移



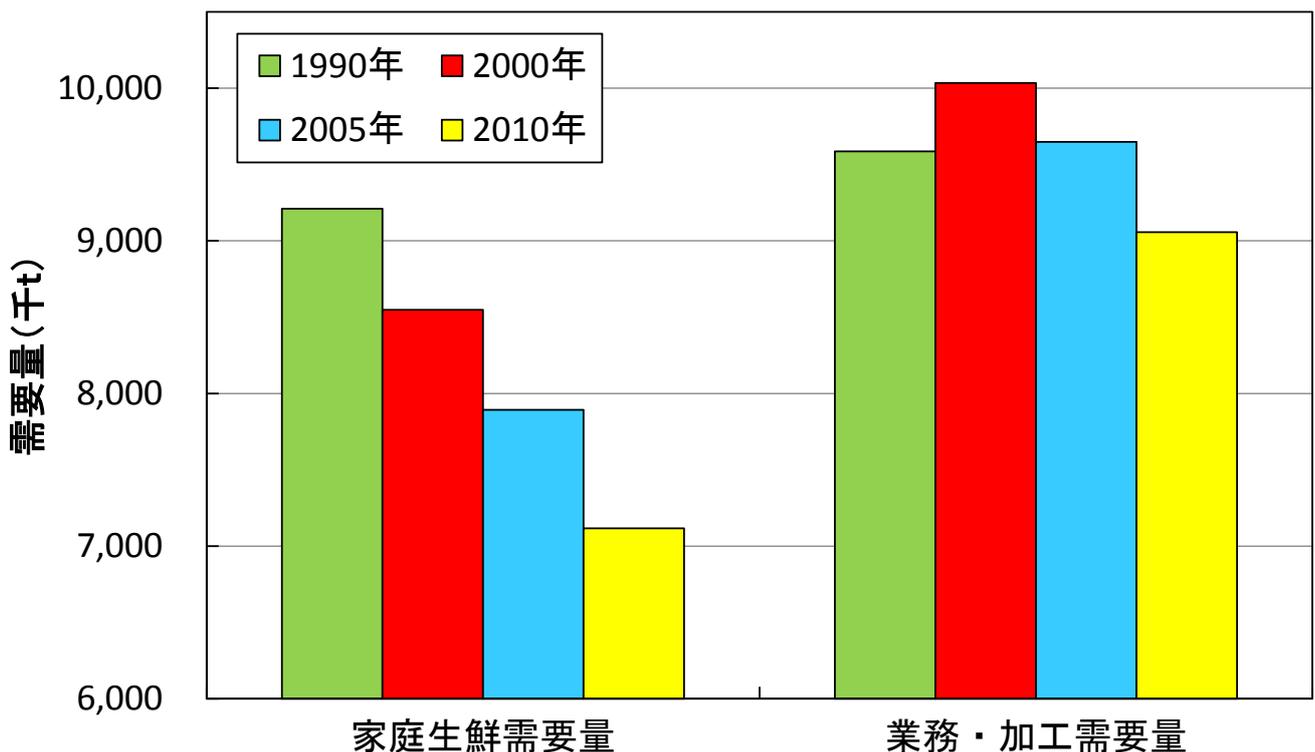
出所:「食料需給表」
注:ここでの消費量は「供給純食料」である。

図4-2 品目別1人1日当たり消費量の推移



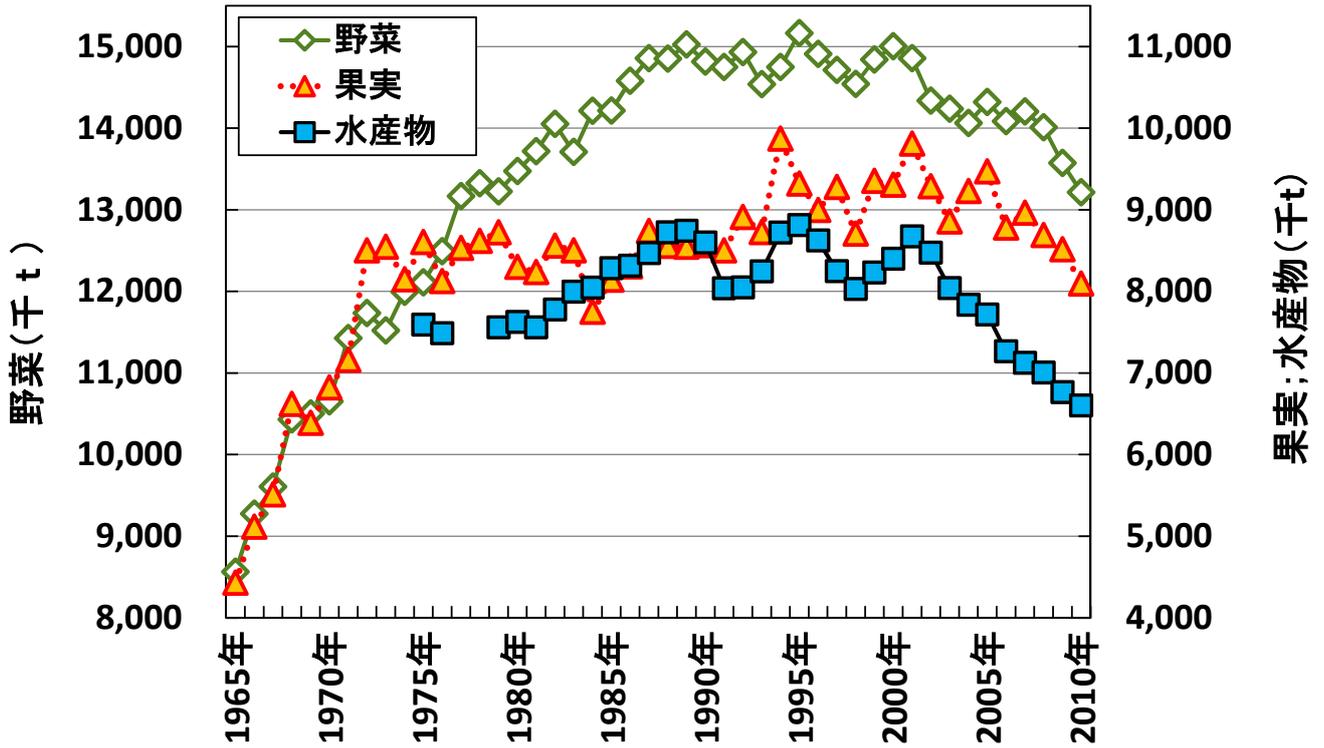
注:「野菜・I」は「食料需給表」の「野菜」。「野菜・II」は「野菜」「いも類」「きのこ類」の合計。

図4-3 野菜の家庭生鮮需要と業務・加工需要の変化



出所:「食料需給表」、農林水産政策研究所資料

図4-4 野菜・果実・水産物別総流通量の推移



出所：農林水産省「卸売市場データ集」
注：イチゴ、スイカ、メロンは果実に含まれる。

図4-5 全国卸売市場総卸売量の推移

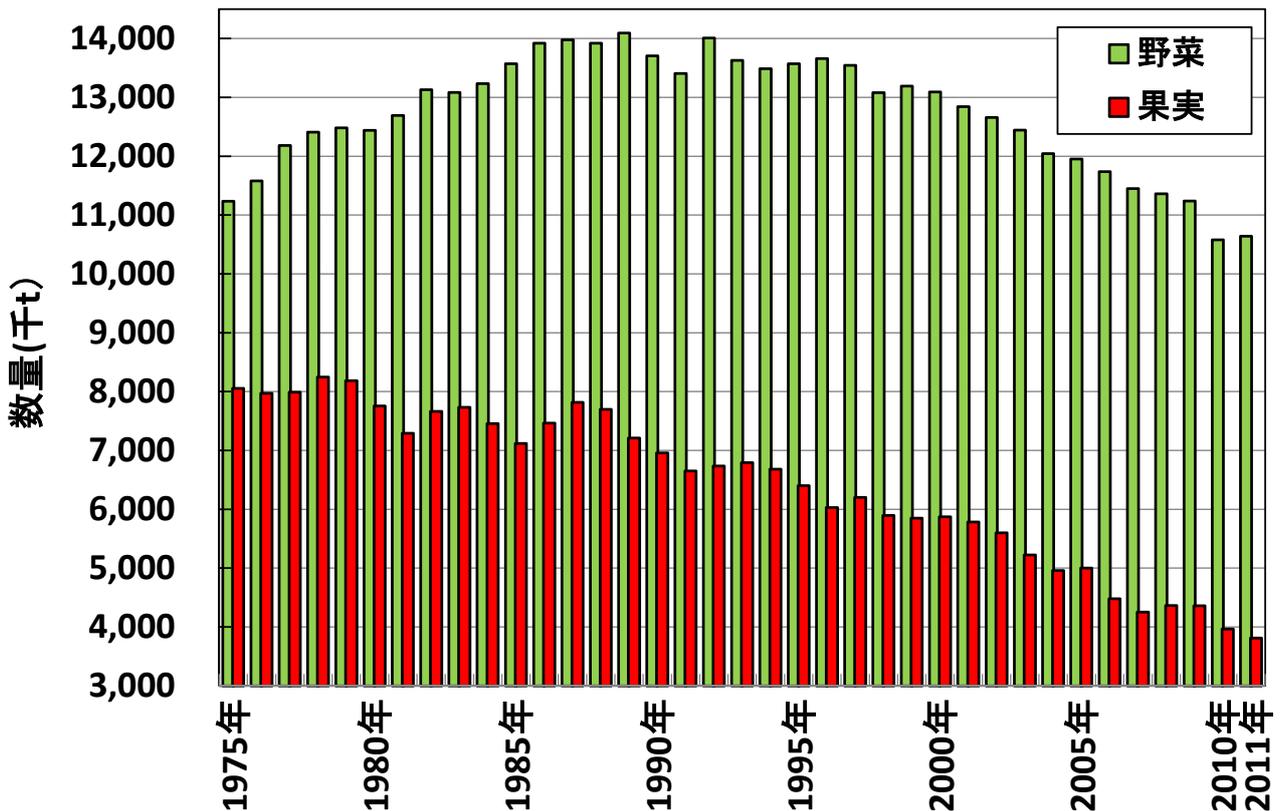
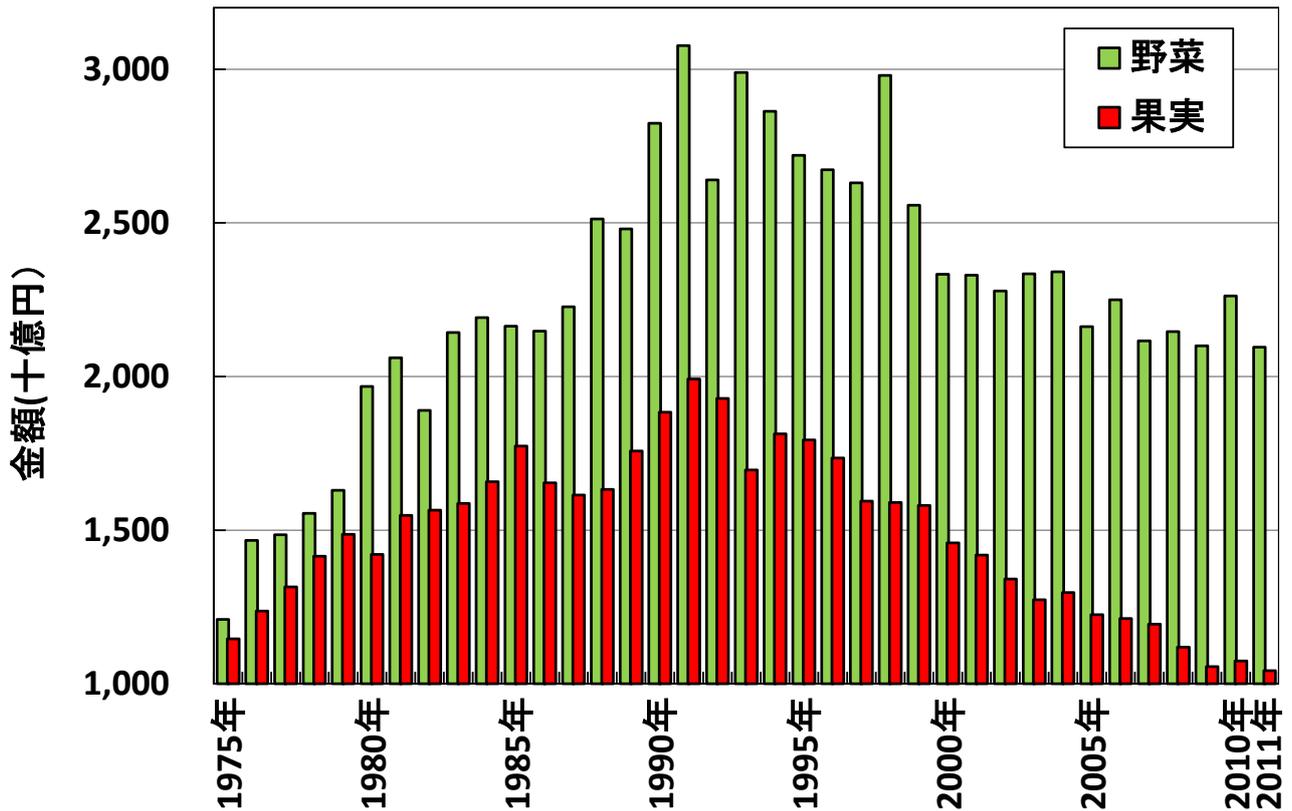


図4-6 全国卸売市場総卸売額の推移



・1人当たり消費量(供給量)の減少

(消費品目の多様化、野菜は米の補完財?)

人口の横這い・減少

総消費量(総供給量) = 総流通量の減少

・家庭向け生鮮品、業務・加工向けとも減少

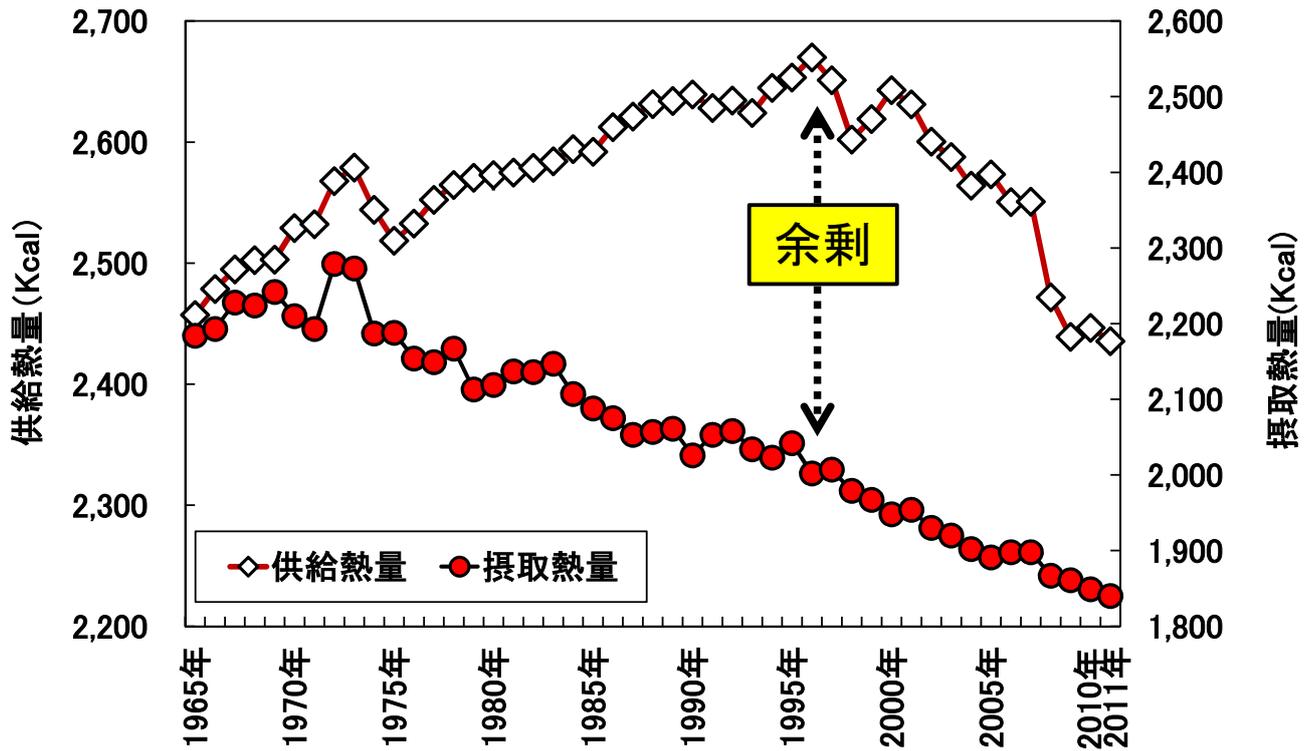
ただし、減少幅が大きいのは生鮮品

卸売市場卸売高の大幅な減少

(高齢化、有業女性の増加)

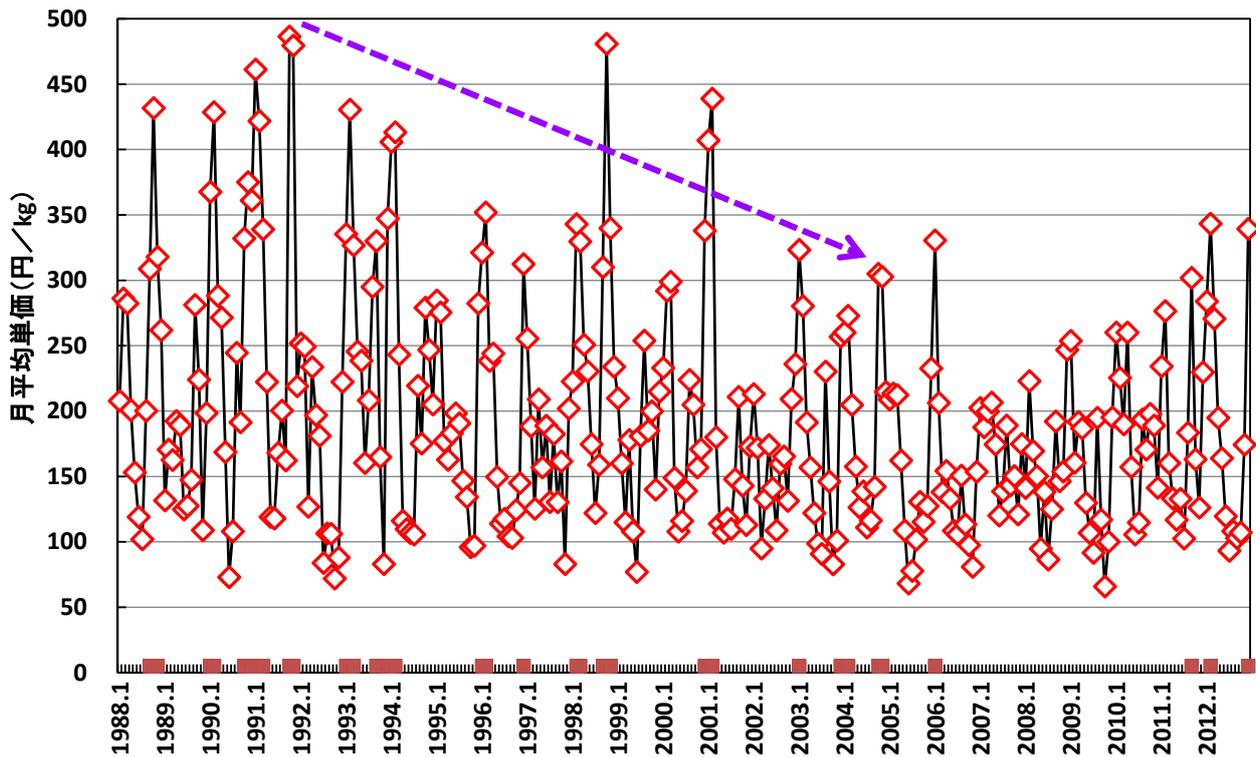
5. 価格の全般的な低位収斂化

図5-1 1人・1日当たり供給熱量と摂取熱量の変化



出所:「国民健康・栄養調査」「食料需給表」

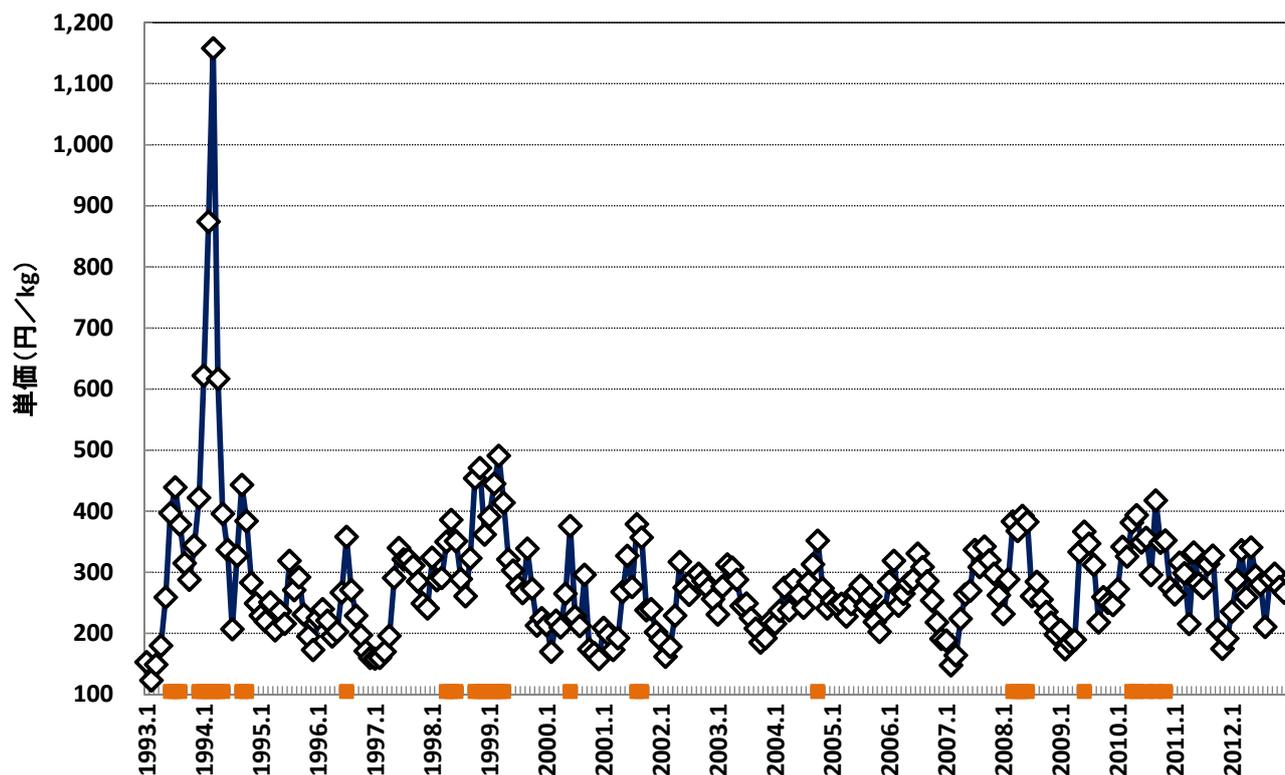
図5-2 東京都中央卸売市場における国産レタスの月平均単価の推移



出所:東京都中央卸売市場「年報」

注: X軸の太い赤い実践は、月平均単価が300円/kgを超えていることを意味する。

図5-3 東京都中央卸売市場における国産白ネギの月平均単価の推移



出所：東京都中央卸売市場「年報」

注：X軸の太い赤い実践は、月平均単価が350円/kgを超えていることを意味する。

・生鮮品を中心とする消費の減退



供給過剰傾向の深化

・供給過剰傾向

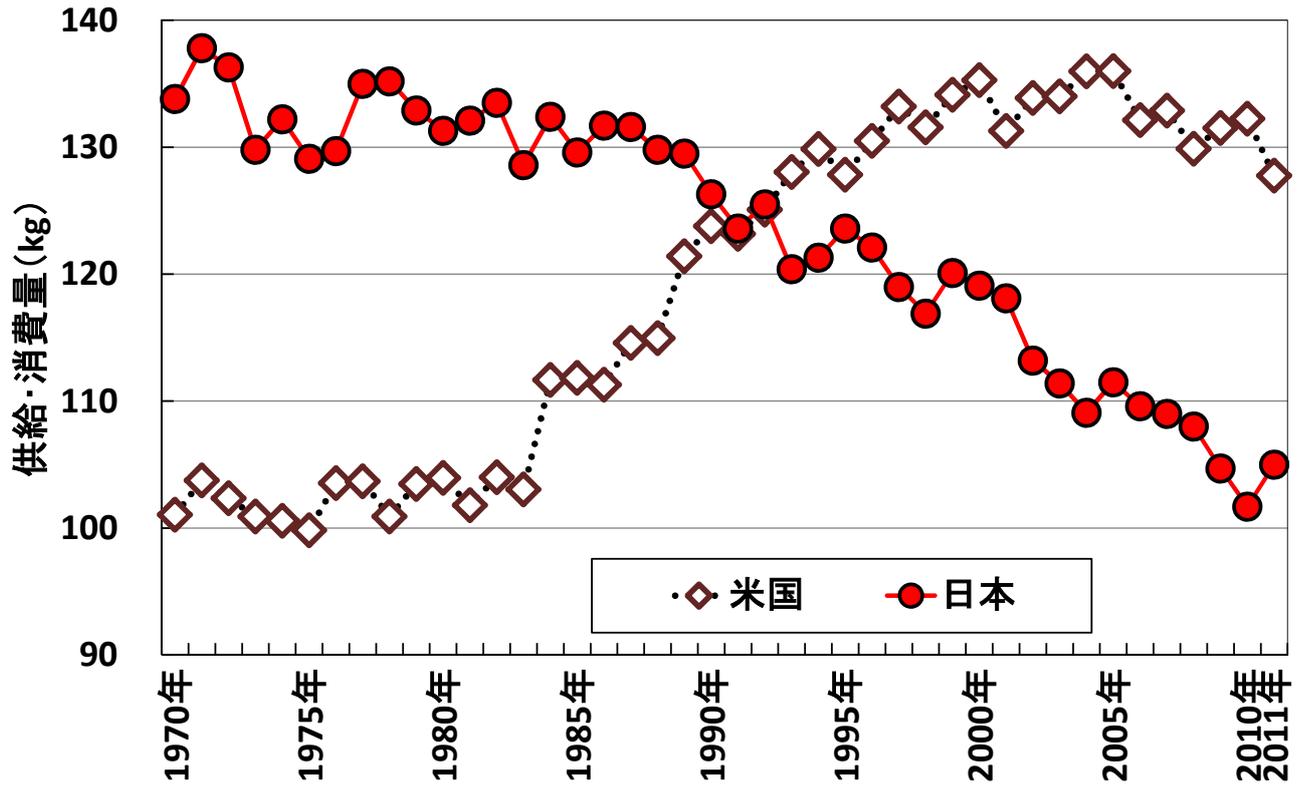


経済的要因



価格の低位収斂化

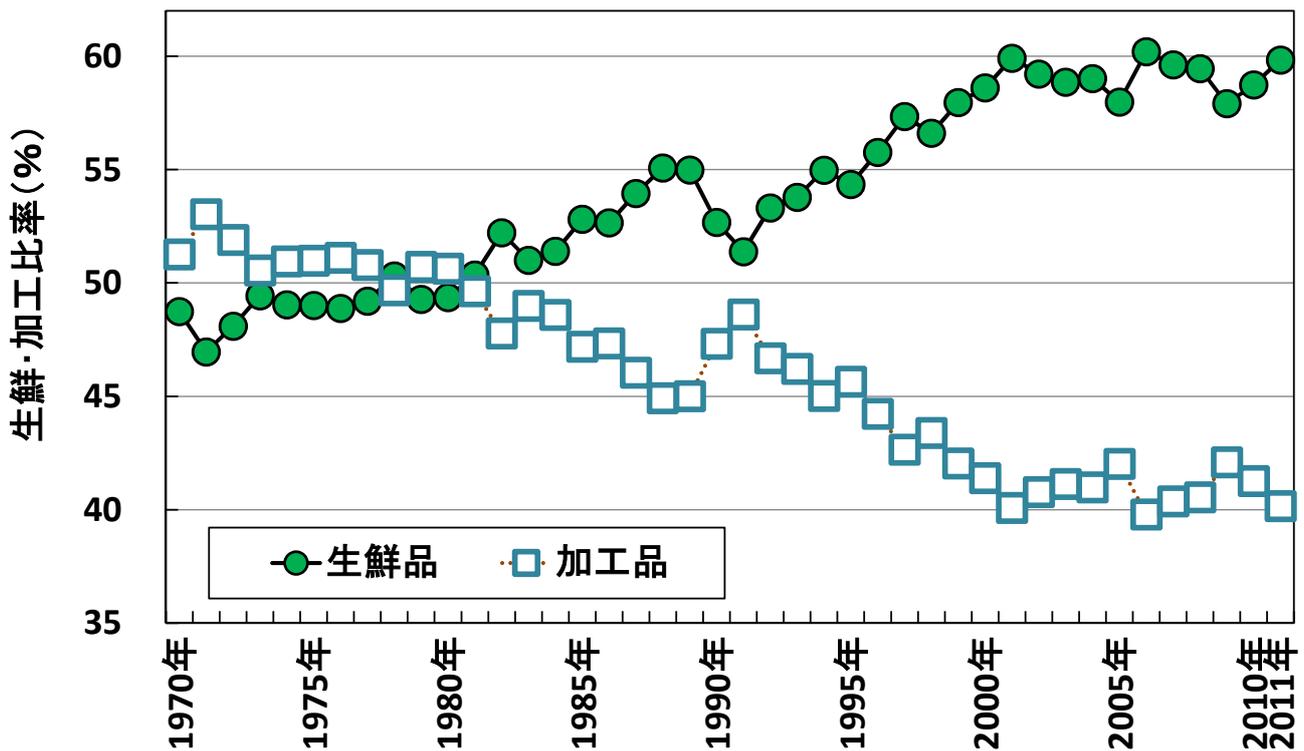
追-1 野菜供給・消費量(粗食料ベース)の日米比較



出所: 食料需給表、Vegetables and Pulses Yearbook Data

注: パレインヨを除く。

追-2 米国における野菜の生鮮・加工比率の変化



出所: Vegetables and Pulses Yearbook Data

注: パレインヨを除く。